

【小学校6年間で目指す子ども像】 自己肯定感から自己有用感の育成へ

「自分も幸せ（好き）、みんなも幸せ」
と言える子ども

【教 育 理 念】

「広げ、深め、高め合う」学び舎

※「合う」・・・子ども、保護者・地域、教職員が相互に結び合う関係（協働）

- 「主体的・自立的」な学びを根幹とする学び舎（学びをつくる）
- 「多様性・個性」を包みこむ学び舎（関係をつくる）

経 営 概 要

【小学校6年間のねらい】

「広げ、深め、高め合う」学校づくりと、対話を基盤として多様性・個性を認め合い、子どもが主体的・自立的に「問い」をもって学ぶ授業実践を通して、生涯にわたって協働しながら新たな価値を創り続ける力・よりよい自己と社会の実現を目指す態度を養い、「自分も幸せ（好き）、みんなも幸せ」と言える子どもを育成する。

【学校教育目標】

「問い」をもって学ぶ五加の子

～ 目指す教師像：「問い」から始まる学びを創造する教師 ～

【重点1】学びづくり

子どもが問題意識（「問い」や「願い」）をもち、クエスチョン（W）型や結論の根拠や理由を問う等の学習問題を設定し、見方や考え方の「ちがひ・ズレ」及び共通点を共有することを通して、対話（友・対象・自己）の質を高め、学びを深める。

【重点2】関係づくり

地域の方との協働、異学年・他者との交流活動、主体的・自立的に学び合う授業を通して、聴き合う関係・「助けて」「教えて」と言える関係を構築し、多様性・個性を認め合う。

【重点1・2】を支える教育支援・システム

① 小学校6年間学習支援・システム

学級担任の持ち上げを原則とせず、学習指導では積極的に教科担任制（専科・授業交換）を取り入れることで、子ども一人ひとりの特性に対応する多様な指導を行う。また、「結果より過程」を重視し、自己の高まりを実感できる評価・支援を行う。

② 地域協働システム ～地域と共に歩む～

学校運営委員会・地域ボランティア・外部講師等との積極的な協働により「地域に開かれた教育課程」を編成し、地域と共に生きる五加の子どもを育成する。

③ 教職員研修

教職員が、お互いの授業を参観し子どもが「対話（友・対象・自己）」する姿を語り合ったり、授業づくりに係る定期的な研修や振り返を行ったりすることを通して、「主体的・自立的な学び」の具現に向けた授業力の向上を図る。